



～ パッションフルーツ品種比較食味アンケートまとめ ～

小笠原地域では「台農1号」が栽培され、生産技術の向上とともに高い品質で消費者の皆様からは評価を得ています。「台農1号」の課題として高温期の着色不良があり、その解決方法として同等以上の品質を有する代替品種の検討の要望がありました。営農研修所では平成25年度から鹿児島県等で栽培されている「ルビースター」と「サマーQueen」を亜熱帯農業センターから導入して、その生育特性と果実品質を「台農1号」と比較検討するため実証展示栽培を行い、その食味について試食アンケートを実施しました。

●調査期間：平成27年4月20日～5月31日
●調査方法：父母両島の農業者、都職員等を中心に20～60代の男女を対象に調査しました。

●調査項目（抜粋）

- 「甘さ」は、年齢・性別に関係なく「ルビースター」が高い評価を得ました（表1）。
- 「酸味」と「香り」は、大差はないが「台農1号」の評価がやや高くなりました（データ省略）。
- 「食感」は、3品種間の明らかな差異はありませんでした（データ省略）。

・「総合評価」は、40才代で「台農1号」、20・60才代で「ルビースター」の評価が高い値となりました（表2）。

＜営農研修所 藤本＞

表1 甘さの評価

	台農1号	ルビースター	サマーQueen
全年齢層	3.0	3.4	3.0
20才代	3.0	3.4	2.9
女性	3.0	3.6	3.1
男性	3.0	3.5	3.0
30才代	3.0	3.5	3.0
女性	3.0	3.4	3.3
男性	3.0	3.6	2.8
40才代	3.0	3.3	2.8
女性	3.0	3.5	2.9
男性	3.0	3.0	2.6
50才代	3.0	3.2	2.9
女性	3.0	3.0	3.0
男性	3.0	3.2	2.8
60才代	3.0	4.1	3.4
女性	3.0	4.6	3.0
男性	3.0	3.9	3.5

表2 総合評価

	台農1号	ルビースター	サマーQueen
全年齢層	3.0	3.0	2.8
20才代	3.0	3.2	2.9
女性	3.0	3.2	2.9
男性	3.0	3.2	2.9
30才代	3.0	2.8	2.7
女性	3.0	3.0	2.7
男性	3.0	2.8	2.8
40才代	3.0	2.7	2.7
女性	3.0	3.1	3.4
男性	3.0	2.6	2.4
50才代	3.0	2.8	2.8
女性	3.0	2.7	3.0
男性	3.0	2.9	3.0
60才代	3.0	3.5	3.0
女性	3.0	3.0	3.0
男性	3.0	3.7	3.0

～マンゴーに発生した南根腐病～

2013年に露地に定植したマンゴー（品種：アーウィン）で、南根腐病（みなみねぐされびょう）の発生を確認しました。南根腐病は、*Phellinus noxius*（シマサルノコシカケ）というカビの一種が原因で引き起こされる、立枯れ性の病気です。この菌は、1916年に枯れ木に発生する「きのこ」として小笠原から記録されておりましたが、近年、南西諸島や小笠原諸島において植物病原菌として問題視されるようになってきました。農業センターでは、都レンジャーや森林総合研究所と協力して、調査を行ってきました。その結果、少なくとも26科33種もの植物に発病を確認しました。

この病原菌の宿主範囲は極めて広く、樹木類を中心に世界中で200種以上の植物に発生を確認しています。この病気の特徴は、①発病樹の株元に茶色の膜が張り付いていること（図1）、②樹の衰弱に気付いてから枯死までが極めて短期間であること、③株元の樹皮を削ると茶色の帯線が蜂の巣状の模様をしていること（図2）が挙げられます。葉がしおれてからみるみるうちに枯れ、青枯れ状態となり、葉をつけたまま枯死するケースが多く見受けられます。また、発病樹の根に健全樹の根が接すると、そこから感染して、集団枯死する場合があります。小笠原では、

今のところ経済的な悪影響が出る程の農業被害の報告はありませんが、防風林として利用されるアレカヤシなども発病します。さらに、圃場周囲によく見られるシマグワ、ギンネムなどは比較的発病しやすい傾向がありますので、今後被害が拡大する恐れがあるので注意が必要です。

先にも述べたとおり発病に気付いてから枯死までの時間が短く、薬剤をはじめとする有効な防除法がないため、予防に重点をおいで対応しなければなりません。そのため、①防風樹と畑の境で根切りを行い、病原菌の圃場への侵入を防ぎましょう。②発病樹は根ごと早急に除去し、地中に埋めましょう。放置すると病原菌の巣窟になります。 <小野>



図1 株元の菌糸膜 図2 茶色の帯線

～マンゴー炭疽病を予防しましょう～

マンゴー炭疽病は、葉の斑点や果実や花軸などに黒い斑点を生じる病気で、特に収穫後の果実に発生すると商品価値をなくす病気です。病原菌は開花期には感染しますので、出蕾期～開花期にかけての薬剤散布が有効です。この時期は、花に薬害の出ないオーソ

サイド水和剤80の散布が良いでしょう。炭疽病菌は潜在感染する厄介な病原菌ですので、感染初期に抑え込むことが重要です。現在農業センターでは、生産者の皆様の協力を得て、炭疽病の生態に合わせた防除暦の作成を試みています。 <小野>

～ ドック期間に出荷できるキャベツ品種 ～

島内自給用の野菜栽培は生産者・消費者ともに要望が大きく、特におがさわら丸ドック期間中の生鮮野菜の供給は重要な課題です。農業センターでは、この要望に対応するため、平成26年度にドック期間（1/17～2/2）の野菜供給を目指したキャベツの品種比較試験を行いました。

気温の条件を考慮し、一般的に9～10月播種で使用されている5品種を供試しました。おがさわら丸のドック期間収穫を目指し、9月下旬に播種、10月中～下旬に条間70cm、株間30cm間隔で定植しました。10aあたり、堆肥2t、タンカル100kg、化成肥料（14-14-14）75kg、有機肥料（8-8-8）130kgを全区9月中旬に基肥を全面施用し、追肥で化成肥料（14-14-14）100kgを2回に分けて通路に施用し

ました（1回目：本葉が10枚程度になった時、同時に土寄せ。2回目：結球が始まってきたら）。ドック前の1月9日、16日および1月23日に各品種10株収穫し、収穫物の形質を調査しました。

「とくみつ」を除く品種では、平均球重は1/23収穫が最も重く、ドック期間に合わせるには各品種9月下旬播種、10月中～下旬定植が最適でした。また、平均球重が最も重かったのは「しずはま」、「いろどり」は、全調査で最も軽い値となりました（図1）。

表1に各調査日の収穫物形質を示しました。全重と球高、外葉数（少ないほど捨てる部分が少ない）、食味（表2）などを総合的に判断すると球重が重く食味の評価が高い「しずはま1号」がお勧めの品種です。

<菅原>

表1 品種ごとの各収穫日における収穫物の形質

品種名	1/9収穫			1/16収穫			1/23収穫		
	全重 (g)	球径 (cm)	外葉数 (枚)	全重 (g)	球径 (cm)	外葉数 (枚)	全重 (g)	球径 (cm)	外葉数 (枚)
しずはま1号	2104.2	20.4	15.8	1953.3	19.5	14.3	2097.5	20.0	15.4
YR藍宝	-*	-	-	2035.8	18.5	15.8	2049.2	18.9	15.8
いろどり	1895.8	17.2	14.3	1628.3	16.7	12.2	1753.3	17.1	13.5
とくみつ	-	-	-	2325.0	19.4	13.3	2104.2	18.6	13.9
青淋	-	-	-	1844.2	18.0	15.2	1958.3	18.8	14.3

各数値は10株ごとの平均値

*：球が充実していなかったため計測せず

表2 キャベツの食味に関する官能評価（回答者数15）

評価項目*1	しずはま1号	YR藍宝	いろどり	とくみつ	青淋
外観	3.5	4.2	3.3	3.6	3.7
甘味	3.8	3.8	3.3	2.8	3.2
辛味	4.1	4.0	3.4	3.3	3.0
硬さ	3.4	3.3	3.5	3.4	3.7
総合評価*2	4.0	3.9	3.5	3.1	3.4

*1：すべて良5～悪1の5段階評価、甘味は甘い・辛味は弱い・硬さは硬いをそれぞれ5とした

*2：各項目の平均値ではなく、回答者それぞれの総合的な官能評価

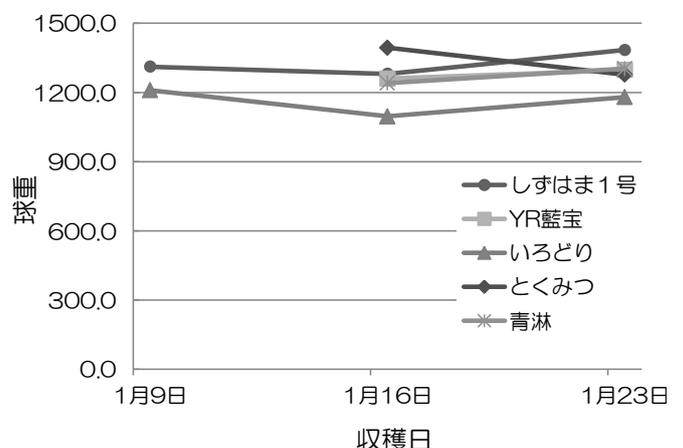


図1 各収穫日の平均球重

～ 気になるカロリー摂取のお話 ～

少々太り気味だから食事量を減らしてダイエットを・・・と考えた方は少なくないのでしょうか？人間の場合、1日に必要量〇〇キロカロリー(kcal)などと表示されますが、産卵鶏にも推奨される摂取カロリー(エネルギー)が存在することをご存じでしょうか？

鶏は十分なエネルギーを摂取しないと本来持つ能力を発揮できません。エサは食べるけど、産卵率はさっぱり・・・ということにならないよう、エサの『エネルギー』も気にかけてみてください。

最も産卵する時期の鶏は1日1羽当たり300kcal程度のエネルギーが必要です(鶏の場合、代謝エネルギーと呼び、人間で使う単位とは若干異なります)。この数値には内訳があり、体の維持に約175kcalで、卵の生産に約125kcalとなっています

市販の配合飼料を給与している場合110g程度で300kcalを充足することになりますが、野菜くずなどの残飯を主体とする場合は十分なエネルギーを摂取できない可能性もありますのでご注意ください。

以下は代表的な飼料の代謝エネルギー量(100gあたり)です。

◎とうもろこし 328kcal

◎大豆油粕 240kcal

◎フスマ 194kcal

残飯として利用されるみかん皮は129kcal、とうもろこしは109kcalと、低めになっており、これらで300kcalを満たすにはそれぞれ233g、275gが必要となり、1日で採食できない可能性があります。また、トマト、パッションフルーツをはじめとする野菜・果物の代謝エネルギー数値の大半は明確にされていませんが、水分含量が高いことからエネルギー量は少ないことが推測できますので、エネルギー量の高い飼料の補足として使用するのが無難です。

なお、エネルギーの他、産卵率を左右する栄養素は蛋白質、カルシウム、リン、ミネラル・・・と多岐にわたりますので、バランスのとれた飼料給与が不可欠になります。

また、産卵率を大きく左右する条件として鶏の月齢があり、8か月齢前後をピークに漸減しますので、飼料コストと産卵率から経済的な寿命を把握することをお勧めします。

給与飼料をはじめとする鶏飼養全般について疑問がある方は畜産指導所までお問い合わせください。 <畜産指導所 太田>

農業者セミナー開講のお知らせ

今後の予定は以下のとおりですが、開催時間等詳細は「村民便り」等でお知らせします。

《12月》「トマトの病害虫、短期暴露、IPMについて」

父島：12月10日(木) 母島：11日(金)

講師：東京都農業振興事務所 技術総合調整係(病害虫担当) 宇津木課長代理

《2月》「野菜栽培について」

講師：東京都農林総合研究センター 園芸技術科 沼尻研究員

参加を希望される方は、農業センター(担当:菅原)までお申込み下さい(TEL2104/FAX2565)

農業センターニュースは小笠原亜熱帯農業センターのホームページにも掲載しております。

検索

小笠原支庁 → 小笠原亜熱帯農業センター → 農業センターニュース